

異常高温継続中 水稻の高温対策を実施しましょう！

令和5年8月7日
大里農林振興センター

1. 高温対策として穂肥を施用しましょう

白未熟粒の発生を軽減するために最も重要な対策は、葉色診断に基づく適期・適量の穂肥の施用です。

2. さらに今後も異常高温が続いた場合には、緊急措置として追肥を行いましょう。

【追肥の目安】

時 期：出穂5日前～穂揃い期頃の葉色が3.5以下の場合

施用量：窒素成分で1～2kg/10a

3. 水管理

出穂前後7日間は湛水状態を保ちましょう。

それ以降は間断かん水を行い根の活力維持に努めましょう。

早期落水は避けてください。

また、かん水は夕方以降に入水を行うことで地温を下げる事ができます。

なお、「かけ流しかん水」は用水不足を招き、高温障害を助長しかねないため避けます。